

地政学的リスクと日本経済

双日総合研究所副所長
吉崎達彦

- *年明けから変調し始めた外部環境
- *アルゼンチンとウクライナの共通点
- *大変な問題を抱え込んだロシア経済
- *結構ラッキーだった日本
- *怖いのは確率で計算できないリスク
- *決められない政治が米経済の好調生む？
- *中間層の没落と勃興が不安定化の背景
- *アベノミクス二年目は四番打者に期待
- *オバマのリーダーシップを支える役割を



柴生田 それでは、時間になりましたので始めたいと思います。（拍手）

今日は、皆さんご紹介の必要もないくらいおなじみだと思えますが、双日総研の吉崎先生に来ていただきました。経済の話はいろんな方に伺ってまいりましたが、今日は地政学という観点を入れまして、お話いただくかと思えます。世界はあちらこちらで相変わらずきな臭い話がありますし、日本をめぐる周囲の関係も相変わらず緊張関係が続いています。アメリカは少しドタバタして頼りないし、いろんなところで問題が生じていますが、われわれも国内の問題だけ考えていると何かを見失うことがあるかと思えます。今日は、吉崎先生から少し多面的な物の見方を教えていただけるのかなと思います。

それでは、吉崎先生、よろしくお願いいたします。（拍手）

吉崎 今日は貴重な機会を頂戴しまして、ありがとうございます。調べてみましたら、この会に呼ばれるのは、私はこれが3回目でございます。いちばん最初は2011年6月でございます。まして、ちょうど東日本大震災の後で、震災後の日本経済、特に電力はどうなるのかといったお話をさせていただきました。

次が2012年の秋でございます。このときはアメリカ大統領選挙がこれからどうなるかという話をやっております。

3回目ともなると、すっかり信用されてしまったかどうか、テーマはご自由にと言われてしまいました。4月の時点でどんなテーマがいい